



No.36 学校図書館 司書だより

2020年3月



わたしと読書

児童文学再入門

宮地 章

ずいぶんまえのことです。
Eテレで大江健三郎の「文学再入門」という講座がありました。昔読んだ本を読み直すという価値(意味)に気づくということだったと思います。

最近、岸武雄の作品を読み返して、確かにそうだと思いました。岸武雄は教師として二十二年間、岐大付属の主事(校長)を務め、共著も含めれば百冊近い本を出しています。こんな人はこれまでもいなかったし、これからも出ないでしょう。

代表作「千本松原」を読んだのはいつだったか? 記憶にないくらいまえです。西美濃の輪中地域を舞台に、治水工事に携わった薩摩藩士と農民の物語です。



以前、岸さんが話してくれました。読者から「手つなぎ地蔵はどこにありますか」という手紙が来たというのです。岸さん、こみあげてくる笑い声を押し殺しながら「そんなものないんです」としてやったりの笑顔でした。いたずらに成功した子どものようだとそのときは思いました。「千本松原」の最終章で、弥平じいと与吉は手をつないで濁流に消えていきます。へ手つなぎ地蔵は二人の死を悼んで、叔父の五助が建てたものです。

七十歳近くになって読み返して、あのと

きの岸さんの笑い顔は、私が思ったほど軽いものではなかったかもしれせん。へ手つなぎ地蔵で最後を締めるという構想に向けて「千本松原」は書かれている。それを示すいくつもの伏線が読みとれるのです。そんな作者の意図に鋭敏に反応してくれた読者への喜びだったのだろうと思いました。

それ以上に重要だと思ったのは五助の存在です。五助は弥平や与吉とは対照的な人物として設定されています。最後の場面で流されようとすると二人を、いったん自分の手でつなぎ留めます。しかし、つぎの瞬間、自分も流される。死ぬ。と思った五助は手を離してしまうのです。自分の弱さのために、他者を死に追いやるような罪深い行為をなぜ五助にさせたのか。ここに岸文学を読み解く重要な鍵があるように思えるのです。

閑話休題。

現在、岸さんの作品の多くは入手困難となつていきます。そこで、図書館のお世話になつていきます。



全く個人的な趣味のために、お世話いただいて本当にありがたく思っています。

そんな本の中に「躰のこころ」(昭和十八年 啓林社)がありました。岸武雄三十三歳。記念すべき第一作です。岐阜県でただ一冊、高山市立図書館にしかなかったようです。黒い表紙は古色を帯び、黄ばんだ頁に文字が沈んでいます。他の岸さんの本もいずれこのようになり、無くなってしまうのかもしれない。

幸い、岸さんは児童文学者です。小学校や中学校の図書館には残っています。また、オールドファンの家には眠っているはず。それらを結びネットワークができれば、まだ貴重な資料を守ることが出来ます。県図書館でさえ岸さんのすべての作品を収蔵できていない現状はまずいと思います。また、美濃加茂市の図書館にも、岸さんの文学作品のすべてがあつてほしいと思います。と、いいますのは、岸さんは美濃加茂市とかなり縁の深い作家なのです。詳しくは別の機会に譲りますが、岸作品に限らず、重要な文化を守っていくために、図書館の役割の大きさは計り知れません。

宮地さんは、創作短編集「夕やけ」 創作長編「トラロカン戦記 風の旅人たち」 創作・評論・随筆集「檣櫓集」を、自分で手作り出版されています。第二十五回・二十六回岐阜県文芸祭児童文学部門の審査員も務められました。美濃加茂の人形劇団「はらべこ」の座付き脚本家でもあります。

文中の「岸武雄」の作品は、美濃加茂市の小学校のすいせん図書にも入っています。四年生「あほろくの川だいこ」 六年生「わたしはひろがる」です。ご家庭でも、是非、読んでみてください。

4/23~5/12

こどもの読書週間

図書館クイズ:

2020年は、「ムーミン」が誕生して75周年にあたります。アニメで人気となった物語ですが、フィンランドの児童文学作家「トーベ・ヤンソン」が書いた小説(挿絵も本人)がもたっています。ようやく戦争が終わった1945年にムーミンシリーズの第1作、たった48ページの「小さなトロールと大きな洪水」が出版されました。この後あわせて9作のムーミンの小説が出版されたのですが、最終巻が出版されたのは何年でしょうか?

- ① 1954年
- ② 1959年
- ③ 1970年



読書タイム

市内の学校・園・施設の
子どもと読書をのぞいてみました

伊深小学校の図書館は、朝から本が大好きな子どもたちでいっぱいになります。「この本を借ります。お願いします。」かわいい子どもたちの声が響きまします。小さな図書館ですが、季節の本コーナー、手作り絵本の展示、国語の作品集など、子どもたちが楽しめる工夫でいっぱい素敵な図書館です。

本校では、子どもたちにより本を好きになってほしいと願い、朝の読書活動、委員会や伊深朗読サークルの方による読み聞かせなど様々な取組を行っています。

その中のいくつかを紹介します。一つ目は週に二日、朝の会前の十五分間に位置付けている読書の時間です。朝読書の前日は、一人二冊借りられるダブルブックデーとしています。そのうちの一冊を机の上に準備して帰り、翌日登校するとすぐに読書を読みます。この15分間は、本の世界にひたる大切な時間となっています。

二つ目は、図書委員会で、年に三回行っている図書館祭りです。例年、一学期はいろいろな分類の本を読む、二学期は知りたいうことや疑問に思ったことを本で調べる、三学期は一番心に残った本を友達に紹介するというねらいで実施しています。二期の図書館祭りでは、図書委員の子ども達がクイズを作成し、その答えを図書館の本から見つけるという活動を企画しました。



伊深小学校

三つ目は、月に二回、「伊深朗読サークル」の方々に来ていただいている読み聞かせです。この読み聞かせを通して、子ども達は、心が温かくなる話、季節に合った話など、いろいろなジャンルの本に出逢うことができます。子ども達は、目を輝かせながら聞き入り、読み聞かせをして頂いた後は、心に残ったことを伝え合い、本のおもしろさを共有しています。

今後、様々な活動を通して、本好きな子ども達が増えるよう取り組みんでいきたいと思っています。

した。全校のみんなが興味を持って参加できるよう、『日本で一番目に高い山は？』はんべんは何からできていますでしょうか？』など、楽しいクイズを考えて出題しました。どの本から探せばよいか分からず、困っている一年生の子に、「四分類の本を探してみるといいよ」と委員会の子がやさしく声を掛けるなど、どの子も楽しめる図書館祭りとなりました。

また、辞書の早引き大会「早調べバトル」も行いました。この大会に向けて、事前に図書館で練習をする児童もいるほど人気のあるイベントです。当日は、低学年の児童も応援にかけつけ、全校で大いに盛り上がりました。「来年は絶対参加したい!」「早く辞書を引きたい!」とやる気満々の子どもたちがたくさんいるほどでした。

「ねこの手かします」

内田麟太郎/作 文研出版 ¥1200+税



秘密企業「ねこの手や」はねこの手も借りたいくらい大変な事態にお手伝いする店です。そこに、ゆうかい事件解決の依頼が飛び込んできました! ひっかき名人のクロから、ねこの手を借りて、無事に人質を助けられるのでしょうか!?



物語

「たべものやさん しりとりたいかい

かいさいします」

シゲタサヤカ/作

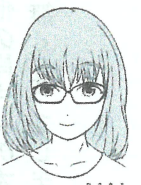
白泉社 ¥1200+税



商店街で「しりとり大会」開催。おすし屋さんにパン屋さん、ラーメン屋さん、レストラン、八百屋さんなど、いろいろなお店が集まって…優勝はどのお店かな? もりあがること間違いなし! たのしい絵本!



えほん



Y.H

この本読んでみて!

「子どもにスマホを持たせたら

一親のためのリアルなデジタル子育てガイド」

デボラ・ハイトナー/著 星野靖子/訳

NTT出版 ¥1800+税



子どもたちは今後、スマホ等デジタル世界を生きていきます。この本は、ネットやSNSで問題に直面した時、支えてあげられるよう書かれた本です。デジタル社会での“人や物とのつながり”や“信頼関係”を一緒に考えるための本です。

大人むけ



K.A

「リバウンド」

E・ウォルズ/作 小梨直/訳

福音館書店 ¥1600+税



悪い仲間心ゆるれるショーンと、車いすの転校生デーヴィッドは初対面いきなり大ゲンカ。しかし、一緒にバスケットボールに打ち込むうちに新たな一歩を踏み出すことに…「大事なものは、シュートして得点を稼ぐことではなく、失敗したシュートを次に、どうやって決めるかだ。」心に響く言葉です。

小説



T.S

図書館クイズの答え

②1970年 最終巻「ムーミン谷の11月」が出版されました。1954年にイギリスの夕刊紙「イヴニング・ニュース」でムーミン・コミックスの連載が始まり、1975年まで、世界40か国以上で親しまれました。2001年に、画家、小説家であったヤンソンは86歳で亡くなりましたが、今も物語は読みつがれています。

このコーナーで本を紹介しているのは、市内の学校司書3人と東図書館司書です。